

太陽の自転と惑星の公転との関係 並びに 惑星の自転と衛星の公転との関係 を示す HH(Hula-Hoop Rotation-Revolution)モデル

The HH(Hula-Hoop)Model on Rotation of the Sun and Revolution of the Planet(Rotation of the Planet and Revolution of the Satellite)

林 大雅[1]

Hiromasa Hayashi[1]

[1] 長構造研究会

[1] LRSRL

<http://www.geocities.jp/hangikai2005/>

The HH(Hula-Hoop Rotation-Revolution) Model indicates the Commensurability or Resonance relations between Rotation of the Sun and Revolution of the Planet, and also between Rotation of the Planet and Revolution of the Satellite.

太陽の自転と惑星の公転との関係 並びに 惑星の自転と衛星の公転との関係 を示す H H (Hula-Hoop Rotation-Revolution)モデルを提案する。

HHモデル(Hula-Hoop Rotation-Revolution model)により
「太陽の自転と惑星の公転との関係」並びに
「惑星の自転と衛星の公転との関係」を示す
尽数関係(Commensurability), 共鳴関係(Resonance) について
観測されたデータを使って検証する。

HHモデル(Hula-Hoop Rotation-Revolution model)は
「太陽の自転と惑星の公転との関係」では, 惑星の公転周期 (Y) であり,
太陽系の惑星の公転軌道の半長径 (K) を直径とする様な仮想フラフープ
を想定すると, 仮想フラフープの半径Hの概算は, $H = K / 2$ で求められる。

次に, 仮想フラフープの公転周期が, 太陽の自転周期 (A) に同期していると
仮定して, 仮想フラフープの自転周期 (X) を計算すると, 仮想フラフープの
円周は, $2 H$ であり, 仮想フラフープを回している 太陽の赤道半径 = R の
円周は, $2 R$ であるから, 仮想フラフープの自転周期は, 両者の円周の比率
に太陽の自転周期を乗じた値になる。 $X = (2 H / 2 R) \times A = (H / R) A$

ここで求めた仮想フラフープの自転周期 (X) と, 惑星の公転周期 (Y) との
間に, 尽数関係(Commensurability), 共鳴関係(Resonance) が多々見受けられる。

HHモデル(Hula-Hoop Rotation-Revolution model)は
「惑星の自転と衛星の公転との関係」では, 衛星の公転周期 (M) であり,
惑星系の衛星の公転軌道の半長径 (K) を直径とする様な仮想フラフープ
を想定すると, 仮想フラフープの半径Hの概算は, $H = K / 2$ で求められる。

次に, 仮想フラフープの公転周期が, 惑星の自転周期 (D) に同期していると
仮定して, 仮想フラフープの自転周期 (X) を計算すると, 仮想フラフープの
円周は, $2 H$ であり, 仮想フラフープを回している 惑星の赤道半径 = r の
円周は, $2 r$ であるから, 仮想フラフープの自転周期は, 両者の円周の比率
に惑星の自転周期を乗じた値になる。 $X = (2 H / 2 r) \times D = (H / r) D$

ここで求めた仮想フラフープの自転周期 (X) と, 惑星の公転周期 (Y) との
間に, 尽数関係(Commensurability), 共鳴関係(Resonance) が多々見受けられる。